

今日は私を、明日は私が

岐阜市立岐阜清流中学校

3年 亀山 詩織

「納税は、支え合いなのよ。」これは、母の口癖だ。図書館に行くときやゴミ出しの日、私が教科書を読んでいるときも母はこの言葉を口にする。図書館などの公共施設やゴミ処理、教科書も税金がもたらす恩恵だ。これを耳にするたび、私は温かい気持ちになっていた。「人という字は互いに支え合ってヒトとなる」という言葉を思い浮かべていたのだ。これは、私に「支え合い」の素晴らしさを教えてくれた大切な言葉だ。

しかし、最近、母のこの言葉を耳にするたび、やるせなさを感じるようになった。大切な言葉に疑問を抱くようになってしまった。私には、一方の人が他方の人に一方的に支えられているように見えてしまっていたからだ。そして、私は多くの大人たちの納めた税金に支えられてばかりではないかと。

国税庁によると、中学生一人あたりの年間教育費の約一二万二〇〇〇円や一年間で国民一人にかかるゴミ処理費用の約一万九七二八円など多くのサービスの費用にも税金があてられているそうだ。

その日も、母の口癖を耳にした。「私は、支えてもらってばかりだけど」私は、ため息まじりに、そう言った。母は「期待されているのよ。あなたたちは、将来の日本の担い手だからね」と言い、私のやるせなさを払拭してくれた。そして、母も、子供の頃は当時の大人たちをはじめ多くの人生の先輩方に支えられていたことも話してくれた。母は今、そんな先輩方や私たち後輩を支えるために納税しているのだとも語った。

「納税は支え合い」のためだ。初めて母の言葉に共感できた。納税するということは世代間での「支え合い」だ。今日、私たちは多くの先輩方に支えられている。明日は、私たちが感謝の気持ちを込め、お世話になった先輩方の将来を支える。先輩方より良い社会を創ろうとしてきた意志を受け継ぎ、世代交代後は、私たちが後輩たちを支える。まさに、「支え合い」の循環といえる。

今、私たちが納める税金は、商品購入時の消費税が精々だ。それにもかかわらず、先輩方の納めた税金によって私たちは、教育や福祉などの面で支えられている。これは、将来の社会の担い手である私たちへの期待が込められた莫大な投資だと捉えている。恩返しのためには、先輩方に「この投資は成功だった」と感じてもらうことが重要だ。だから私は、自分が納税者として先輩方や後輩たちを支え、より豊かな社会を形成する日を見据えて、一生懸命に学びたい。いつか、胸を張って「人という字は互いに支え合ってヒトとなる」そう言えるように。